

薬学部
人文社会学部
ヒューマンケア学部
健康メデイカル学部
健康医療スポーツ学部

学 力 試 験
国 語

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
二、解答用紙は、マーク用解答用紙と記述用解答用紙が両面に印刷されています。
マーク式の問題はマーク用解答用紙に左記の例のようにマークしてください。

(例)

解答	
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
2	① ② ③ ● ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

※同じ解答欄に複数のマークをすることもあります

記述式の問題は記述用解答用紙に記入してください。

- 三、机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。
四、問題・解答用紙の両方に必ず受験番号・氏名を記入してください。また、受験番号をマークしてください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。
五、問題は3問全問解答必須です。
六、試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
七、問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。
八、配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。
◇携帯電話は、電源を切ったうえで鞆の中にしまってください。

志望学科・コースの上枠に○をつけてください（第一志望のみ）

受 験 番 号				
氏 名	志望学科・コース			
		薬学部	薬学	科
	人文社会学部	小学校・特別支援コース	保育・幼稚園コース	福祉コース
	ヒューマンケア学部	トレーナー・鍼灸コース	トレーナー・看護コース	看護学科
	健康メデイカル学部	健康栄養学科	心理学科	言語聴覚学科
	健康医療スポーツ学部	トレーナー・看護コース	作業療法コース	理学療法コース
	看護学科	救急救命士コース	アスリートコース	動物医療コース

「問題二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

次々と現れる「新しい」生き物

生物にさほど詳しくない人でも、プランクトン、酵母、乳酸菌、コウジカビ、粘菌、そんな小さな生き物（微生物）たちの名前を一つくらいはどこかで聞いたことがあるだろう。彼らは、地球上のあらゆる所に潜んでおり、畑の土をひとつまみすれば、その中には地球上にいるすべての人間の数より多い微生物が棲^すんでいるとも言われている。

しかし、かつて世界には動物と植物しかいなかった。あえてそれにもう一つ足すとすると、それは鉱物だった。

「分類学の父」と称されるカール・フォン・リンネは18世紀に活躍したスウェーデン生まれの博物学者である。リンネの最大の功績は、自然界にある様々な存在に体系 **ア** な分類を初めて試みたことである。彼は1735年に動物・植物、そして鉱物の三界を整理した『自然の体系』の第一版を出版した。その後、その体系に改良を重ね、生物の学名を属名と種小名の2語のラテン語で表す二名法や、種より上位の分類単位である綱、目、属などを設けることにより階層的な構造 **イ** を生物分類に導入すること等を提唱した。彼の提示した基本概念は、現代生物学の分類にもそのまま引き継がれており、生物学の重要な **a キ盤** となっている。

A 、冒頭に述べたように彼が活躍した時代、世界に生物は動物と植物しかいなかった。その当時、微生物は地球上に存在しなかったのか？もちろんそんなことはない。実際、リンネが生まれる前の17世紀末には、オランダのレーウエンフックによって微生物の一種である原生生物や細菌がすでに発見されていた。ただ、レーウエンフックの作った顕微鏡は、極めて高度なレンズ作製技術を持つ彼の手作りの品であり、誰でも持っているようなものではなかった。その当時、顕微鏡は一部の貴族や裕福な人たちだけが持つ不思議な鏡、そう「万華鏡」のような存在であり、レーウエンフック自身が「人々のあいだでは、私のことを魔法使いだと言っていますし、私がこの世には存在しない物を見ているとも言っています」（『レーベンフックの手紙』クリフォード・ドーベル著 天児和暢訳）と述べている。実際、レーウエンフックの死後1世紀ほどの間、彼のお手製の顕微鏡をしのぐ性能を持った顕微鏡や、彼のような情熱を持って微生物に取り組む研究者はなかなか登場せず、微生物学は長きに亘^{わた}り停滞することになる。

B 、その当時の世界には動物と植物しか存在しなかった。 **X** 、リンネの時代には肉眼で見えない微生物は人々にきちんと認識されていなかったのだ。微生物学が本格的な **I 胎動** を始めるのは19世紀に入り **ウ** 性能な複式顕微鏡が普及するようになってからのことである。その19世紀には酵母によるアルコール発酵の発見に端を発して、様々な発酵反応が微生物の力によって起こることが知られるようになり、後半に入るとロベルト・コッホにより「感染症は病原性微生物によって起きる」とが明らかにされ、医学にも大いに応用されることになる。このような微生物学の発展に伴い、微生物と一口に言っても、その中には真核生物^{注1}も原核生物^{注2}もあり、様々な種類の生き物が含まれていることが分かってきたのだ。

C 世界には、動物界、植物界に加え、細菌のような原核生物からなるモノラ界、単細胞の真核生物を中心とした原生生物界、キノコや酵母等を含む菌界が現れた。1969年にホイタッカーが提唱した五界説の登場である。五界説は感覚的な理解が容易であることから広く受け入れられ、教科書にも登場するよく知られた説であるが、残念なことに科学的な結論から言えば、その寿命も決して長くはなかった。現在の知見から言えば、「その当時、世界には五界しか存在しなかった」ことになる。リンネの

科学は人間の認識できるものに基づいて構築されており、Ⅱ この説が提唱された1969年には、顕

が、生物の持つ遺伝子配列（DNA配列）を決定できるシークエンサーという機器（技術）である。

となり、これにより五界説はあえなく **c ガ** 解した。モネラ界（原核生物）は、古細菌と真正細菌に大^{注3}きく二分され、真核生物では動物界と菌界（キノコ・カビ・酵母等）が統合された。菌界に含まれると考えられていた粘菌は、分子系統解析の結果、別グループとなり、今ではカビと粘菌より、カビとヒトの方が親戚、同じ仲間である。

ような大きな生物 工 が、少なくとも7つは存在することになる。そして Ⅲ その数はまだ増える可能性を持っている。

(中屋敷均『科学と非科学』より)

注	
1	真核生物 …… 細胞核をもつ生物
2	原核生物 …… 細胞核をもたない生物
3	古細菌と真正細菌 …… 独自の細胞壁をもっているか否かによつて分類される

問一 傍線部 a ～ c のカタカナの部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から一つずつ選びなさい。

解答は a ～ c の順にマーク用解答用紙の 1 ～ 3 にマークしなさい。

- | | | | | | |
|---|------|------|--------------------|------|------|
| a | ① 軌跡 | ② 基調 | ③ 貴重 | ④ 規制 | ⑤ 規格 |
| b | ① 打撃 | ② 愠性 | ③ 墮落 | ④ 無駄 | ⑤ 妥協 |
| c | ① 牙城 | ② 無我 | ③ 瓦礫 ^{れき} | ④ 新芽 | ⑤ 画策 |

問二 空欄 A ～ C に入る語句の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びな

さい。解答はマーク用解答用紙の 4 にマークしなさい。

- | | | | |
|---|---------|-------|-------|
| ① | 「 A 一方 | B つまり | C そして |
| ② | 「 A 一方 | B しかし | C そして |
| ③ | 「 A しかし | B だから | C つまり |
| ④ | 「 A しかし | B 一方 | C つまり |
| ⑤ | 「 A しかし | B だから | C そして |

問三 空欄 A ～ E に入る適切な接頭語及び接尾語を、次の中から一つずつ選びなさい。

ただし、各選択肢は一度しか選べないものとする。解答は A ～ E の順にマーク用解答用紙の

5 ～ 8 にマークしなさい。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| ① 化 | ② 型 | ③ 的 | ④ 高 |
| ⑤ 派 | ⑥ 群 | ⑦ 非 | ⑧ 性 |

問四 空欄 X に入る最も適切な表現を、次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の

9 にマークしなさい。

- ① 科学は、情熱をもって取り組む研究者によって発展を遂げており
- ② 科学は、現代生物学の分類をそのまま引き継がれて構築されており
- ③ 科学は、広大な未知領域に基づいて構築されており
- ④ 科学は、最先端の技術によって仮説が明るみになったものによって構成されており
- ⑤ 科学は、人間の認識できるものに基づいて構築されており

問五 傍線部Ⅰに「胎動を始める」とあるが、この文脈での意味として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 10 にマークしなさい。

- ① 母胎内で胎児が動き始めること
- ② 気づかない所で物事が生まれ出ること
- ③ 物事が思うように進まず足掻^{あが}き始めること
- ④ 新しい物事が内部で動き始めること
- ⑤ 突き動かされる衝動に駆られること

問六 傍線部Ⅱに「この説」とあるが、それが指し示す内容として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 11 にマークしなさい。

- ① 科学は人間の認識できるものに基^もづいて構築されているという考え
- ② ホイタッカーが提唱した五界説
- ③ 感染症は病原性微生物によつて起きるというロベルト・コッホの考え
- ④ かつて世界には動物と植物しかいなかったという考え
- ⑤ その生物が持つDNA配列に基^もづいて分類するという考え

問七 傍線Ⅲに「その数はまだ増える可能性を持っている」とあるが、その理由を「顕微鏡」「シークエンサー」「認識」という語句を用いて85字以内(句読点・記号等も字数に含む)で説明しなさい。解答は記述用解答用紙に書きなさい。

問八 本文の内容・趣旨として適切ではないものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 12 にマークしなさい。

- ① 18世紀の博物学者カール・フォン・リンネは、自然界を動物界・植物界・鉱物界の三つに分類し、二名法や綱・目・属などの階層構造を導入した。彼の体系は現代分類学の礎となっている。
- ② 17世紀末にレーウエンフックが手製の顕微鏡で微生物を観察したものの、その後彼のように情熱を持って取り組む研究者が登場せず、微生物学は停滞した。
- ③ 複式顕微鏡の普及により、発酵や病原性微生物の研究が進展し、1969年にホイタッカーが動物界・植物界・菌界・原生生物界・モネラ界の五界説を提唱した。
- ④ シークエンサーの登場による分子系統解析が主流となり、五界説は衰退した。
- ⑤ 18世紀のリンネによる三界(動物・植物・鉱物)分類の正しさが、現代の分子系統解析を用いて証明された。

「問題二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、①～⑩は、段落番号である。

X 漢字、ひらがな、カタカナ

① いきなりだが、とてもたいせつなことをひとつ。日本語を書記するために、漢字、ひらがな、カタカナの三種の文字があるのではない。三種の文字とともにある言葉が日本語をつくっているのだ。

② 日本語を学びはじめた外国人の人々がまずはじめに当惑するのは、日本語に、漢字、ひらがな、カタカナという三種の文字による表記があることだという。たとえば漢字で「漫画」と書く場合もあれば、ひらがなで「まんが」、カタカナで「マンガ」と書く場合もあり、その使い方やニュアンスが微妙に異なる。たしかに、これは世界を見渡してみれば a 特異な状態である。漢字表記とハングル表記を併用する韓国などを除けば、世界中のどの言葉も、基本的に一種類の文字で足りている。少しずつ違いがあるとはいえ、英語やフランス語、ドイツ語ではアルファベットを、ロシア語は古代教会スラブ語に由来するキリル文字を使う。ところが、日本語は三種類の文字を必要とする。

③ 日本語を母語とするわれわれには当たり前であっても、これは外国人にとっては驚くべきことであろう。他国の言語を話す人々にとっては、日本語は学ぶのも難しいが、使いこなすのも難しい。彼らととりわけ不思議に思い困惑するのは、かな文字に、ひらがなとカタカナの二種類があり、I それらは同じ五十音を表す表音文字でありながら、かたちが違い、使用法も異なることである。日本語にはなぜ三種類の文字があり、なぜ三種類の文字を使用するのだろうか。

④ 一般的には、日本語という一つの言葉が先にあり、それを書き表すための文字として、漢字、ひらがな、カタカナの三種類の文字があると教えられてきたが、この考え方に立つと三種類も文字はいらない。とりわけ、ひらがなとカタカナは、同じ文字数で、かたちが違うだけだから、どちらかひとつで足りる。日本にきた外国人の多くが、ひらがなとカタカナの併用に驚き、どちらかひとつに統一すればよいと考えるのも無理からぬことである。それでは、なぜわれわれはひらがなとカタカナを自在に使い分けるのか。

⑤ 文字は言葉である。言葉を抜きに文字はありえない。日本語という言葉を書き表すために三種類の文字があるのではない。逆に三種の文字が、それにふさわしい意味、表現、文体をもち、その集合体として日本語が成立している。文字は言葉の記号ではなく、言葉はつねに文字とともに存在する。このように、文字の側から言語の世界を考えてみると、この国の言葉の実態に迫ることができる。すなわち日本語という統一した言葉があり、それを書き表すために漢字、ひらがな、カタカナがあるのではない。三種類の文字があり、そしてそれぞれに対応する言葉が一体となって日本語があるのだ。

Y 桜、さくら、サクラ

⑥ われわれは〈サクラ〉という言葉をもとに、漢字で「桜」、ひらがなで「さくら」、カタカナで「サクラ」と書きわけると、A そう考えるだけでは不十分である。漢字でなければならぬ、別の言い方をする、と、「桜」という文字とともにある日本語が存在し、B、ひらがなで表現せねばならない「さくら」、カタカナでなければならない「サクラ」という日本語があるからである。これら三つの言葉を総合して日本語の〈サクラ〉はできている。このように発想を変えると、日本語に対する考え方もこの国の文化を見る目も変わってくる。

⑦ C 「民主主義」という言葉は通常、漢字で示す。「みんしゅしゅぎ」や「ミンシュシュギ」と表記されたらなかなかしっくりこない。むしろ、デモクラシーの訳語である「民主主義」も、それは翻訳語として作られたもので、西欧での長い歴史を重ねてきた「democracy」とは若干異なる。ひらがな

語でその意味を翻訳するならば、デモクラシーとは、「ひと（人）ひとがぬし（主）なるかんが（考）え」とでもなり、これではとても実用に堪えない。一般に政治や宗教、あるいは哲学や倫理の言葉の多くは抽象度の高い漢字による表現に **b** イ 存しており、ひらがなには馴染^{なじ}まないからだ。

⑧ 漢字で「桜」と書いた場合は抽象的で遠景的な、東アジア的なスケールをそなえ、「梅」と対比される、「桜花爛漫^{らんまん}」など漢語的な文脈を浮き上がらせる。これがひらがなの「さくら」になると、ひらがな歌Ⅱ和歌とともに育てられた **X** 的で **Y** 的な、春が来れば日を置かず^なに満開になり、風が吹けば花びらが散り、ひと晩雨が降れば翌朝には一気に散ってしまう、われわれが日常的に接している、愛しい「さくら」「さくらばな」の意となる。ひらがな語の「さくら」はわれわれの生活に近いところにあつて、日常的美学を生み育てている。そして、学術的、生物学的に種を表現する場合にはカタカナで「サクラ」と表記する。動植物などの学名、また外国の地名や人名など外来語にはカタカナを使用する類だ。近年、新聞や雑誌などで、動植物の名前はカタカナで書くことが定着している。

⑨ たとえば「春海^{シュンカイ}」は東アジア全域、漢字語圏共通の言葉である。これにカタカナの「ノ」を挟みこんで「春ノ海」とすると、「シュンノカイ」にとどまらず、この東海の弧なりの列島のひらがなの言葉に翻訳され、「はるのうみ」と読むことが可能になる。「春海」に日本語の読みが与えられて、「はるのうみ」へと **c** 変ボウしていく。

⑩ 人々は、またこのとき「はるのうみ」だけではなく、そこにカタカナの「ノ」という音を余分に挟みこみ、「はるのうみ」という音を与えた。「春」「海」をひらがなの言葉に翻訳するだけでなく、カタカナの「ノ」は、「はるのうみ」と発音として熟語として安定させるはたらきの一端を担った。さらに、漢字の言葉をそのままにストリートに受容し理解していた段階から、ちよつと待てよと、立ち止まり——「シュン」という音、「春」という文字とともにあるこの言葉は実は「はる」に相当するのではないか。「カイ」と発声し「海」と書く、あの「海^{カイ}」は「うみ」と言い換えられるのではないか——。漢字語から連想できる言葉はいろいろあったはずだ。「みず」でもいいけれど、これに「うみ」という言葉を宛てよう、と試行錯誤がはじまった。 **A** 。

（石川九楊『ひらがなの世界』より）

問一 傍線部 a ～ c のカタカナの部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から一つずつ選びなさい。

解答は a ～ c の順にマーク用解答用紙の 13 に 15 にマークしなさい。

- | | | | | | |
|---|------|------|------|------|------|
| a | ① 意気 | ② 偉人 | ③ 異様 | ④ 以外 | ⑤ 威厳 |
| b | ① 衣装 | ② 意匠 | ③ 依頼 | ④ 畏怖 | ⑤ 為政 |
| c | ① 亡命 | ② 繁忙 | ③ 欠乏 | ④ 脱帽 | ⑤ 全貌 |

問二 空欄 A ～ C に入る語句の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びな

さい。解答はマーク用解答用紙の 16 にマークしなさい。

- | | | | | |
|---|----------|-------|--------|---|
| ① | 「 A だが | B つまり | C 一方 | 」 |
| ② | 「 A たとえば | B だが | C 一方 | 」 |
| ③ | 「 A 一方 | B だが | C たとえば | 」 |
| ④ | 「 A だが | B つまり | C たとえば | 」 |
| ⑤ | 「 A だが | B 一方 | C たとえば | 」 |

問三 傍線 I に「それらは」とあるが、「それら」が指し示す内容として適切なものを、次の中から

一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 17 にマークしなさい。

- ① 漢字とかな文字
- ② 表音文字と表意文字
- ③ 漢字とカタカナ
- ④ 漢字とひらがな
- ⑤ ひらがなとカタカナ

問四 空欄 X ・ Y に入る語句の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 18 にマークしなさい。

- ① 日常、遠景
- ② 日常、近景
- ③ 具象、遠景
- ④ 抽象、近景
- ⑤ 具象、近景

問五 本文中には次の部分が抜けているが、この部分はいずれの段落の後に続くのが適切か。次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 19 にマークしなさい。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | ⑤段落 | ② | ⑥段落 | ③ | ⑦段落 |
| ④ | ⑧段落 | ⑤ | ⑨段落 | ⑥ | ⑩段落 |

漢字の草書体から作られた草仮名が簡略化したひらがなに対して、カタカナは万葉仮名として用いた漢字の偏、旁、冠、脚など、その一部を取って作り出した表音文字である。もともと漢籍、仏典などの翻訳のためにできた符号に発する文字で、漢語と漢語との間をこじ開けるようにして、テニヲハを補い、日本語を文にする役割を担った歴史を背負っている。

問六 本テキストは「X 漢字、ひらがな、カタカナ」と「Y 桜、さくら、サクラ」という二つのまとまりから成り立っているが、二つのまとまりの関係の説明として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 20 にマークしなさい。

- | | | |
|---------------|---------------------|------------|
| ① 並列の関係 | ② 対比の関係 | ③ 質問と回答の関係 |
| ④ 問題提起と解決策の関係 | ⑤ 筆者の考えとそれを支える事例の関係 | |

問七 空欄 ア に入る表現として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 21 にマークしなさい。

- | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| ① かな文字を書くことによって漢字がつけられ、その存在が支えられていった | ② 漢字を書くことによってひらがながつけられ、その存在が支えられていった | ③ ひらがなを書くことによって漢字がつけられ、その存在が支えられていった | ④ ひらがなを書くことによって日本語がつけられ、その存在が支えられていった | ⑤ 文字を書くことによって日本語がつけられ、その存在が支えられていった |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|

「問題三」 次の各問いに答えなさい。

問一 次のア～オは四字熟語の前半の部分である。正しい四字熟語となるように、後に続く二字を、後の〈語群〉の中から一つずつ選びなさい。ただし、各選択肢は一度しか選べないものとする。解答はア～オの順にマーク用解答用紙の 22 ～ 26 にマークしなさい。

ア 一蓮いちれん イ 臥薪がしん ウ 付和 エ 捲土けんど オ 泰然

〈語群〉

- | | | | | | |
|------|------|------|---------------------------|---------------------------|------|
| ① 自若 | ② 雷同 | ③ 重来 | ④ 嘗胆 <small>しょうたん</small> | ⑤ 托生 <small>たくしょう</small> | ⑥ 曲学 |
| ⑦ 応報 | ⑧ 玉条 | ⑨ 暮改 | ⑩ 与奪 | | |

問二 次の文章中の傍線部 a～e の品詞を、後の〈語群〉の中から一つずつ選びなさい。ただし、各選択肢は一度しか選べないものとする。解答は a～e の順にマーク用解答用紙の 27 ～ 31 にマークしなさい。

私は自分の仕事を神聖なものにしようとしていた。ねじ曲まがろうとする自分 a の心をひっぱたいて、できるだけ伸び伸びした b まっすぐな c 明るい世界に出て、そこに自分の芸術の宮殿を築き上げようと d もがいていた。それは私にとって e どれほど喜ばしい事だったろう。

(有島武郎『生まれ出づる悩み』より)

〈語群〉

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|------|
| ① 動詞 | ② 形容詞 | ③ 形容動詞 | ④ 名詞 | ⑤ 副詞 |
| ⑥ 連体詞 | ⑦ 接続詞 | ⑧ 感動詞 | ⑨ 助動詞 | ⑩ 助詞 |

